

第123号

2008

May.

5

ちよな THE KIZUNA

いとしご増刊

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

奈良県自閉症協会
ニュース

発行人： 河村舟二
編集人：奈良県自閉症協会
支部長&事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町 84-10
購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

読

売新聞と自閉症協会でのやりとりがありました。既に新聞を読まれた方もおられると思いますが、まだまだ、自閉症が心の問題だと真に受けしてしまうような記事もあり、自閉症が正しく認識されていません。我々の住む奈良県でも、自閉症についての県民の意識、特別支援教育の対象者としての自閉症児のとらえかた等の実態はどうか、今一度会員の皆様の地域の様子や学校の様子等、身の回りの点検をお願いします。

2008年3月7日、社団法人日本自閉症協会会長石井哲夫氏から読売新聞社編集長あてに「2月23日朝刊に掲載された記事についての抗議とお願い」が出されました。以下はやりとりの文面そのままです。…日本自閉症協会は、2月23日朝刊に掲載された貴紙の記事『日本の知力』に不適切な部分があると考えております。このことに抗議をいたしますとともに、適切な対応をして

.....
頂き、発達障害についての正しい理解が広まりますよう、貴社のご理解とご支援をお願いいたします。-記- 1. 不適切と考える記事1) 用語の説明の中の、「発達障害 注意欠陥・多動性障害 (ADHD)、学習障害 (LD)、アスペルガー症候群などの総称。学習や言葉、対人関係などに問題が出ることが多い。」2) 本文(1面の5段目)の次の部分。「学習、言語、コミュニケーションなどの発達障害は普通、心の問題だと思われている。だが日本赤ちやん学会理事長の小西行郎・東京女子医大教授(60)は、こうした障害も実は身体性が原因ではないかと考え始めている。」2. 上記の記事について当協会が問題と考えること1) 「自閉症」は、平成17年4月に施行された「発達障害者支援法」の第2条第1項「定義」に記載されている名称であり、発達障害を説明する記事から「自閉症」が削除されていることは不自然で、誤解を招くことが懸念

.....
されます。2) 「発達障害は普通、心の問題だと思われている」という書き方は、後段の「こうした障害も実は身体性が原因ではないかと考え始めている」と併せて考えますと、「発達障害は心理的原因によるものである」という1960年代前半までの誤った考え方が未だに広く認められていると捉えられる可能性があり、誤解を生じさせるものです。

3. 訂正および今後 1) 自閉症は発達障害の一つであることをご理解の上、訂正記事を掲載して頂き、「自閉症」を中心とした発達障害についての正しい情報を、例えば「シリーズ」などとして取り上げて頂きたい。2) 「発達障害は心の問題」という記事について、誤解を生じさせないような説明を加え、訂正記事を掲載して頂きたい。

4. 自閉症に関する日本自閉症協会の考え方

1) 私たちは、発達障害を持つ人々が社会の中で共に学び、働き、暮らしていくためには、障害についての誤解をなくし、正しい認識を広めることが重要であると考えております。今回の貴紙の表現には、発達障害についての誤解が広まることを懸念される部分がありますので、記事の訂正や補足説明をして頂きますとともに、今後も正しい理解が促進されるよう、ご協力をお願いいたします。

2) 国際的診断基準の一つであるICD-10(WHO)にも明確に記載されておりますように、発達障害は、「中枢神経系の生物学的成熟に深く関係した機能発達の障害あるいは遅滞である」ことと、「言語、視空間技能、協調運動」の障害が基盤にあることは、世界的に認められております。3) 自閉症を含む発

達障害は見た目ではわからないために、誤解されることが多く、そのことが社会参加の障害になることも少なくありません。当協会といたしましても、正しく理解して頂くように啓発活動を行っておりますが、多くの読者を持つ貴社におかれましても、発達障害の正しい理解が広まりますよう、ご支援を頂きたく、よろしく願い申し上げます。ご参考までに、当症協会が発行しているハンドブックを添付させていただきます。なお、上記の要望についての貴社のお考えを速やかに頂戴したいと思います。－以上－、これに対し2008年3月18日付けで、読売新聞東京本社「日本の知力」取材班の柴田文隆（編集委員）から、次の返答があった。

社団法人 日本自閉症協会会長 石井哲夫殿 2月23日朝刊の記事について

2月23日付朝刊に掲載された「日本の知力」第2部「科学で考える」3回目の記事について、貴協会よりご指摘の件につきましてお答えいたします。この記事の主眼は、発達の過程における身体性の重要性を伝えることにあり、ご指摘のような趣旨・意図ではありませんでしたが、結果的に貴協会はじめ関係者の方々へたいへんなご不快の念、ご心痛をおよぼすにいたったことにつきまして、これを真筆に受け止め、記事の表現などで十分と

動作に関わる脳の機能（つまり身体性）の領域のテーマだ」ということを述べようとしたものです。これは東京女子医大・小西教授の「身体性」に関する仮説で、当方が取材し、咀嚼したうえで記事化したものです。この仮説は、発達障害児においては①一般に運動のバランスの悪さが目立つこと②乳児の時のゼネラル・ムーブメント（手足をランダムに動かす運動）や原始反射に異常が見られるとの報告があること③シナプスの数が多いという報告があること一等を重視し、「発達障害は、学習や言語の直接の機能障害ではなく、より根本的な運動や動作の機能障害からくるものではないか」と考えるものです。記事は、「一般に（実は研究者であっても）、発達障害は学習や言語そのものの問題と理解されているが、実は、学習や言語の下敷きとなっている運動や動作にかかわる問題なのではないか」と指摘しているもので、「発達障害は、環境や育て方に起因する病気と考えられている」と述べる意図はまったくありません。発達障害が脳の機能障害であることは十分に認識しており、「心身」の対比により、「心」と「身体性」という言葉を使うことになったものです。「発達障害は心の病気ではなく、脳の障害だ」という、啓蒙活動において使われる文脈では、「心」は「心因性、心理的」という意味に解釈されますが、記

は言えない部分があったと反省しております。今後はご指摘の点を踏まえ、より一層、発達障害の理解増進のため努力していく所存ですので、どうぞご理解賜りたく存じます。

事実関係については以下、ご説明させていただきます。

1. 「発達障害」の用語説明に自閉症が記載されていない点について…自閉症は古くから知られ、一般読者の認知度も高いのに対し、比較的、近年になって診断が増え、教育現場等で問題になっているのは、注意欠陥・多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）、アスペルガー症候群などであると考え、今回はこれらに力点を置き、列挙いたしました。貴協会のご指摘は今後の取材、執筆に反映させてまいりたいと思います。2. 「発達障害は普通、心の問題だと思われる」との表記について…記事中の「学習、言語、コミュニケーションなどの発達障害は普通、心の問題と思われる」という記述は、「発達障害は心理的原因による」ということを述べたものではありません。記事中でいう「心の問題」とは、「学習能力や言語能力、コミュニケーション能力など、脳の高次の機能（つまり心）の領域のテーマ」という意味で、それと対比した「身体性が原因」という記事中の記述は「学習能力や言語能力の基礎となっている、基本的な運動や

事の文脈では、「心」は脳が生み出す現象・機能を指しています。自閉症研究で使われる「心の理論」という用語や、行政機関でも使われる「発達障害などの子どもの心の問題」という表現も、同様に「心」という一般名詞を、「脳が生み出す現象・機能」として使っている例と思われる。以上、ご説明いたしましたように、全体の文脈から記事をご判断いただき、ご理解いただければと存じます。－以上－この返答に対し石井哲夫会長から再度2008年4月16日付けで抗議の要請がされました。

読売東京本社「日本の知力」取材班編集委員 柴田文隆 殿…3月1日各日付けの「回答」に関する再度の抗議とお願い…日本自閉症協会は、2月23日朝刊に掲載された貴紙の記事『日本の知力』について、3月7日、抗議文をお送り致しました。この件につきまして、3月18日付けのご回答を頂きました。当協会の抗議文について真筆にご検討頂き、丁寧な回答を頂いたことにつきましては評価致しますが、一般読者への啓発をすすめる上ではなお疑問があります。ご承知のように、本年4月2日、国際連合で「世界自閉症啓発デー」が制定され、桝添要一厚生労働大臣も「世界自閉症啓発デー（4月2日）の発足に寄せて」という一文を出しました。このような極めて重要な動きが世界的に出ている状況の中で

は、今回の「回答」では納得することができません。さらにご検討して頂き、自閉症についての正しい理解と認識が広まりますよう、改めて貴社のご理解とご支援をお願いする次第です。

1. ご回答の中で問題となる箇所

1) 記事の中にある「用語解説」において「自閉症」が削除されたことについて、『自閉症は古くから知られ、一般読者の認知度も高い・・・』とありますが、一般的な認知度が低く、誤った理解と対応がなされているために、今回の国連の動きが出たことを十分にご理解下さい。

2) 『教育現場等で問題になっているのは、ADHD、LD、アスペルガー症候群などであると考え』ということは、明確な誤解です。平成19年度から正式にはじめられた「特別支援教育」においては、「従来の特殊教育の対象の障害だけではなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加へ向けて、その一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである」とされております。

3) 「心の問題」について縷々述べられておりますが、当協会としては、そのご趣旨を理解することができません。

協力とご支援を是非とも、よろしくお願い致します。

1 自閉症理解講座 — 全3回 予定

・第1回講演会 6月8日 梅永雄二先生(宇都宮大学教育学部教授)

「自閉症の人の自立をめざして～ノースカロライナのTEACCHプログラムに学ぶ～」

* 申し込み受付中 *空きがあります(5月6日現在)

申し込み用紙をFAX 0744-33-4755

又は 必要事項をメール(携帯からもOK)にてお申し込み下さい。

m-ueshima@k2.dion.ne.jp : 問い合わせも同じです。

・第2回 9月 自閉症スペクトラム支援「自己肯定感を育てる支援」計画中

・第3回1月 自閉症の人の困りごとへの支援 計画中
2メンター養成事業

9月～11月メンター養成・メンターフォローアップ講習会

・自閉症の基礎理解 (フォローアップも兼ねる)

・相談技術の為の基礎知識

・家族への支援

・ロールプレイ研修(フォローアップも兼ねる)

2. 改めて今後の対応をお願い致します 1) 「世界自閉症啓発デー」が制定されたのを機に、貴紙読者の自閉症に対する誤解を解くために、自閉症に関する特集記事または連載記事を組んで頂きたいと思っております。

2) 自閉症に対する貴社の認識をあらたにして頂くために、私共の真意をお伝えしたく、一度面談の機会を作って頂きたいと考えております。これらの2点の要望について、改めてご検討の上、至急、ご返事下さいませようお願い致します。—以上—その後の返事はどうかは今のところ私には分かりませんが、読売新聞等の自閉症に関する記事を注目したいと思います。(河村)



平成20年度 独立行政法人福祉医療機構(WAM) 助成事業

「自閉症児者の自立生活・就労支援事業」のご案内
奈良県自閉症協会では20年度独立行政法人福祉医療機構助成金[高齢者・障害者福祉基金「地方分(複数年助成)」]の内定を受け、19年度に引き続き「自閉症児者の自立生活・就労支援事業」を計画中です。

19年度の内容を更に深く、充実を図り、実践へと進めていきたいと思っております。各方面の関係の方々のご

3 相談会

専門家による相談会 8月末・10月末・12月 予定。
ペアレント・メンターによる相談事業：計画中

4 リソースブックの作成

18年度・19年度版の更に変更箇所や 新しい情報を収集中。

「原稿」「イラスト」を 募集しています。

5 ①保護者のための勉強会

19年度勉強会のおさらいと、更に家庭での実践を中心に参加者のみんなで ビデオ学習・実践体験・時には講師もお招きして今年も 楽しく進めて行きたいと思っております。

②実践勉強会 SKIP療育教室と料理教室・陶芸教室・書道教室・・・参加者に 見合った体験教室探しをしたいです。

☆レクリエーション

奈良県自閉症協会「おやじの会」協力で 計画中。

お父さん・ご家族の参加も お待ちしています。

③支援者の為の勉強会 ・ 事業所さん めぐり !!

← 初の試みです。

☆学校卒業後の方が 長い・・・。

そんな不安に何とか ご協力下さい。

のことで、他の団体の人とは調子が違っていたかもしれない。今まで、地域から受け入れられなかったために施設で暮らしてきている自閉症の人たちが、最近年をとってきていることから、この法律で、今後、地域で生涯生活をを進める方針でいいのか、実際見込みのあることなのかと悩んでの行為であった。でも少しは意味があったかなと思った理由は、何人の人からあの集会で、初めて会長の挨拶を聞いて、やっと日本自閉症協会を信頼したいという気持ちとなってきた。という手紙をもらった。私はこの日本自閉症協会を代表して JDD ネットの理事・名誉代表となっている。このことが、前記の JD とは違って、期待している多くの人たちがいるということと、何を期待しているのかということの原点においておかなければならないと思っている。我々は、なぜこのネットを作ったかと言えば、現実に障害者基本法に記載されている障害分類に属していない「発達上の障害」を抱えて苦労を重ねている本人やその家族の生きていく上での人権擁護のために、少しでも役立つ正しい情報を得て、適切な政策を得るために結束してロビー活動をしているのである。そのためには、基本的に今、この時代を生き抜く上で言い知れぬ苦労をしている発達障害の人本人のためという目標を見失わないように、具体的に発達障害の

人たちが不利益を被り、切迫した状況にいることを社会から見捨てられている状況を改善するために前記の範囲での活動を行っていくことである。発達障害の人が直面していることを正しく国や地方自治体の議員や担当行政官たちに伝えていくためには、自分自身も現実の中に身を置いて体験しなければ分からないことが沢山ある。私は本人部会の責任者となっているが、日本自閉症協会でも創設期には、知的障害を伴う自閉症が、教育も受けられずに放置されていた状態さらには知的障害という枠組みの中に組み込まれるようになって、その過敏な感覚や、不安恐怖にさいなまれる状況には配慮されないまま、強制的な指導体制にはめ込まれてきたことを世に訴えていきたい。嘗て、第1世代の日本自閉症協会の親たちが、地域社会から追い出されていたわが子のために、安心できる生涯生活の場として「槍の郷」「いちょうの郷」「けやきの郷」などという木の生い茂る自然の中で安心できる桃源郷を作ろうとして、自閉症の人たちの安住の場としての生活施設を誕生させた。それが、社会福祉改革として、「障害者自立支援法」という法の下で、これらの生活施設はつぶされようとしている。私はこの事態を座視ししえない気持ちと、さらにその上、自閉症・発達障害支援センターそして、「発達障害者支援法」が相次い

で制定され、まず東京都発達障害者支援センターの窓口を立て、そこに押し寄せてくる青年期以降の高機能広汎性発達障害(高機能自閉症やアスペルガー症候群など)の人たちの潜在している過酷で激しい生活苦を知ることになったのである。一時、軽度発達障害などという呼び名が見られたが、勿論社会参加できる軽度という人たちはいないわけではないが、今、この人たちに障害というラベルを貼る必要はない。立派に社会生活を送ることが出来ている。ただ社会的に誤解され、差別されることには社会改革が必要であろう。我々が知った過酷な実情は、障害名に分類することではなく、事実として、絶望的な、即刻手を打たないと家庭崩壊、家族間傷害が生じてくることになるという状況なのであった。このことに即刻手を打ったための理解者の人脈とか支援する仕組みや経済的な保障を臨機応変にとれるようにしなければならない。どうかこの JDD ネットに加盟している団体の人たちは、少しでもこの社会に困難度の高い人から救援できる方策を考えて行って欲しい。そのための「情報交換」であり「ロビー活動」と心得ている次第である。 以上 (河村)



「私の障害児教育研究の歩み①」

堀 智晴

歩みと書きましたが、思いつくままにこれまでの私の研究の思い出を書かせていただきます。歩みですが、時代順にならないと思います。

私が初めて自閉症の子どもと出会い直接にかかわりを持つようになったのは、M君がはじめてです。その時M君は小学校の6年生でした。彼の小学校の卒業式に行きました。もう講堂での式は終わっていて、養護学級(大阪では障害児学級のことをこう読んでいました)でのお別れの式の途中で、お別れの場面を横から拝見していました。

M君のお父さんが涙を流して養護学級担任の先生に感謝の言葉を述べられました。Mくんのお父さんは軍隊経験のある勝気な性格でした。そのお父さんが顔をくちやくちやにして涙を流して感謝の言葉を言っておられました。そして、息子のM君の頭を押さえてお礼をするように促していたのを憶えています。それに応えてM君が「ありがとう」と恥ずかしそうに言いました。

私はこの時に親の思いの一端に触れる体験をしたと思います。私ももともと涙もろいので涙を流しながらの参

加でした。

このM君のお父さんは、この4月27日の朝亡くなりました。84歳でした。いろんな思い出がよみがえってきます。4月19日に入院中のお父さんを見舞いました。酸素吸入をして大きな口を開けて苦しそうにしておられましたが、私の顔を見るなり「ホリセンセイ」と叫ばれました。息苦しそうなのでゆっくりでいいよ、と私は言いましたが、しばらくしてまた眠りに入られました。それが私との最後の会話となりました。

M君が12歳の時に出会い、いま彼は46歳です。ですからM君とその家族とのつきあいはもう30年を超えることとなります。

いま彼は西宮のNPO法人のグループホームで生活しています。一人生活になられたお母さんは81歳になりますが、これからどうするか落ち着いてから考えるそうです。3つか4つ年上のお姉さんがおられますが、独立して生活しておられます。私はM君の家族から実に多くのことを学ばさせていただきました。このことから書かせていただきましょう。(2008/5/6)

事務局から

事務局出席予定

- 5月22日 本年度第1回奈良県発達障害の会議
- 5月31日 JDD ネット奈良会議 郡山福祉会館予定
- 6月6日 奈良県手をつなぐ育成会総会
- 6月7日 おやじの会
- 6月15日 NHK フォーラム
滋賀県支部の高木さんから奈良からの参加よろしくとのこと。
- 6月29日 日本自閉症協会総会
- JDD パンフレット
就学前の子育て編
1歳半の子育て編
3歳の子育て編
A3一枚裏表HPにアップします。
- 和歌山県支部から県作成コミュニケーションボード見本一部頂きました。
A4版裏表一万部作成し無料で提供するほか、説明が必要なときは県障害福祉課が講師を派遣とのこと。奈良県でも見習いたい取り組みです。

○財団法人サンスター歯科保健振興財団から自閉症の子どものためのやさしい歯みがき指導教材の案内とパンフ1冊13ページB5版が来ています。

内容：1自閉症って2自閉症を理解する鍵3自閉症の子どもへのやさしい歯みがき。ちなみに監修に新澤伸子先生が入っておられます。

○株式会社新宿スタジオからヴィトーン・メディアパークライブラリーというVHS・DVDのカタログ事務局に届いています。発達障害の子を持つ母親達・自閉症支援のために・軽度発達障害のある子どもたち・自閉者が語る幼年時代などいずれも1巻26250円ほどします。

○JDD ネット会報5号事務局に届いています。冒頭「インクルーシブな社会の実現をめざして」副代表の氏田照子氏(自閉症協会)の文章が載っています。

「自閉症児の親子療育キャンプ」のキャンプヘルパー募集

奈良県自閉症協会(旧日本自閉症協会奈良県支部)では、子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)の助成金の交付を受けて平成20年度「自閉症児親子療育キャンプ」を実施致します。
キャンプのお手伝いをしてくださるキャンプヘルパーを募集致します。

実施期間: 2008年8月8日(金)~9日(土)

実施場所: 大阪市舞洲障害者スポーツセンター「アミティ舞洲」 大阪市此花区北港白津2-1-46

交通手段: JRゆめ咲線 桜島下車 シャトルバスにてアミティ舞洲へ(自家用車で参加も可)

本キャンプの活動の特色:

普段から外出する機会の少ない自閉症児に、見通しを持った中で、楽しみながら自己選択・自己決定の自立プログラムを、家族みんなで学ぶことを目的としている。

日程(予定)

8月8日(金)		8月9日(土)	
12:30	現地集合 ミーティング	7:00	起床 洗面 更衣
14:00	始まりの会	8:00	朝の会
14:30	選択活動 (プール・サブアリーナ・プレイルーム・散歩)	8:30	朝食
16:30	オリエンテーリング・部屋割り	9:30	部屋の片付け 荷物移動
18:00	夕食	10:00	選択活動 (プール・サブアリーナ・プレイルーム・散歩)
19:00	工作	12:00	昼食
20:00	入浴	13:00	終わりの会
21:30	就寝 子どもが就寝後、打ち合わせ	13:30	解散

申し込み問い合わせ: 奈良県自閉症協会
園部 TEL/FAX 0742-61-8539

e-mail: cheko.tanaka.13-6-26.4-2-17@docomo.ne.jp

締め切り: 5月31日

○7月12日(土); 大和郡山社会福祉会館で行う予定のプレキャンプにも、ご参加をお願い致します。